

## **大会講評** (Dr. Linda Milan WPRO 健康地域・人口構築担当部長)

[閉会式におけるスピーチ内容(暫定和訳)]

この大会は都市、市長、コミュニティの会合です。私は皆様の前でお話しする立場ではありませんが、健康都市連合の設立に携わった一員として、一言ご挨拶させていただきます。

挨拶に先立ち、御礼を申し上げたく存じます。(各国の言葉で御礼)

大会4日目ですから、各国語で挨拶できなくてはなりませんね。

始めに、市川市の千葉市長、市川市の皆様、有難うございます。そして、3,000名の強力なボランティアの皆様、白、青、ピンク、緑のジャンパーを着て、私達の道しるべとなり、お世話をして下さったことに心から感謝申し上げます。

また、学術委員会の高野委員長にもお礼申し上げます。健康都市の分科会が、他の専門的な学会と同じ位レベルの高い内容であり、大変感銘を受けました。次回の分科会においても、他の学会にひけをとらない学術的な会議となるのではないかと思います。

理事会におかれましては、健康都市連合へご支援を賜り、また、連合の方向性をご提示下さりありがとうございます。そして、新理事会の皆様、おめでとうございます。理事会の取り組みが持続発展されるよう、信任を得て理事に選任された皆様に心から期待しております。

さて、この3日間で何が達成されたのでしょうか。健康都市連合憲章では、2年に1回総会を開催することとなっていますが、今回無事に3回目が終了し、憲章が実行されました。それ以上に、千葉市長、高野委員長がお話されていた社会的な局面において、20カ国の市長、専門家、コミュニティ、市民がここに集結し、交流を行い、友好関係を深め、ネットワークを形成しました。

文化面においても相互理解が深められたのではないかと思います。一堂に会し、文化や手法、手段を理解し、成功事例やその秘訣を学びました。分科会では教養を高めるだけではなく、文化的に、社会的に交流を行い、相互理解を深めることができました。失敗や成功事例を発表し、お互いから学ぶ機会が得られたのです。健康都市連合は成長過程にあり、お互いに学び合うことが大切です。率直に申し上げますと、私自身、

分科会を聴講し、健康都市の現状そしてたくさんのことを学びました。5年前に健康都市連合を設立した際には、このような大規模な組織になるとは想像できませんでした。現在の健康都市連合があるのは、各都市の市長の皆様、地域の皆様、そして連合事務局の皆様のお陰であります。

最後になりましたが、今回の大会を通じて、市長の皆様は誓約を示し、リーダーシップを発揮し、地域の力を集約すれば目的は達成できることが示されました。これこそが、私たちが開拓し、増やしてきた社会資本であります。私たちが世界中の様々な課題を解決するためには、地域社会を育て、その力を使わなければなりません。それを実行する手段としての千葉市長の1%支援制度は素晴らしいものだと思います。

WHOの小さな貢献から始まった健康都市連合は、現在のように大きく成長いたしました。皆様のご努力と貢献に敬意を表します。

本当にありがとうございました。2年後に江南でお会いしましょう。